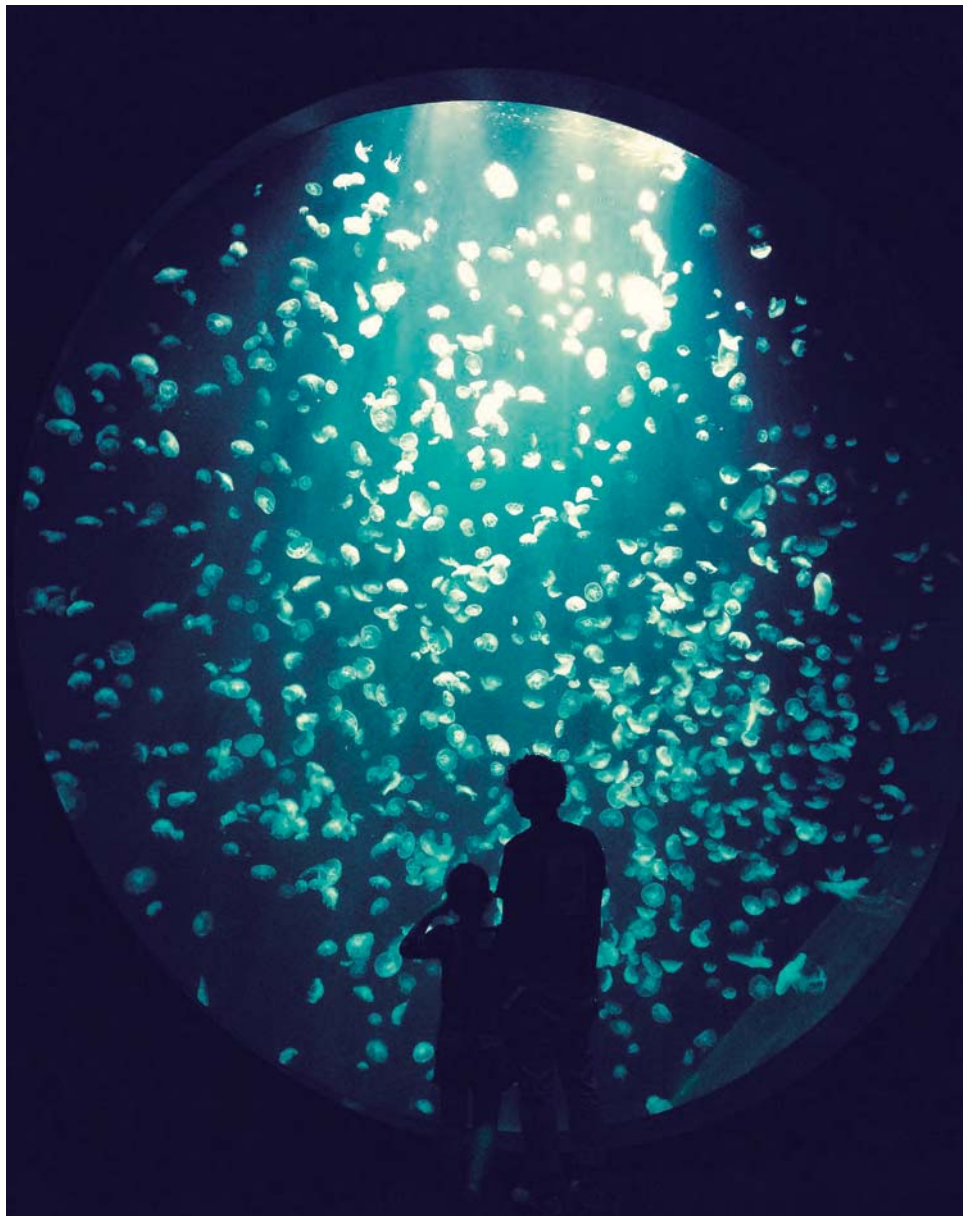


めでいかすとり
Médicastre



「クラゲの世界へ」

鶴岡地区医師会

28年 **12**月号

第36回 市町長・部課長、庄内保健所、庄内病院、 こころの医療センター、医師会役員懇談会

日時：平成28年11月18日(金) 18：30～
場所：東京第一ホテル鶴岡

第36回目となる市町長・部課長、庄内保健所、庄内病院、こころの医療センター、医師会役員懇談会が11月18日東京第一ホテル鶴岡で開催されました。

小野副会長の進行で、土田会長と来賓の鶴岡市 榎本政規市長のご挨拶の後、4題の話題提供が行われました。

初めに、鶴岡市健康福祉部健康課 課長補佐の小林まゆみ氏より「鶴岡市歯科口腔保健行動計画について」と題し、ライフステージに応じた対策、サポートを必要とする人への施策、社会環境の整備に向けた施策について説明がありました。

次に、こころの医療センター 診療部副部長の東海林岳樹先生より「当院における児童思春期精神科医療」と題し、東北でも2番目の開設となる児童・思春期病棟について、風景を交えた子ども病棟の紹介がありました。

第3題目は鶴岡市立庄内病院 医事課長の菅原稔氏より、「庄内病院における救急患者数の推移について」と題し、救急受診や入院状況、紹介件数等の動向について詳細なデータで説明がありました。

最後に当会介護老人保健施設みずばしょう 総務会計課の難波課長より「ユニットケアの開始にあたって」と題し、個別ケアのより一層の充実を目指し、地域包括ケアシステムの一端を担う施設として住宅支援の強化をしていきたいという説明がありました。

引き続き隣の会場に席を移し、三川町 阿部誠町長の乾杯のご発声で懇談会が行われ、和やかな雰囲気の中で親睦を深めることができ、鶴岡地域の行政と医療がface to faceの関係性を持ち続けることの大切さを感じる機会となりました。

在宅サービスセンター
本間 幸井



日時：平成28年11月27日(日) 13:00～
場所：ホテルリッチ&ガーデン酒田

第35回 庄内医師集談会

庄内医師集談会幹事 三浦 道治

平成28年11月27日午後1時から、第35回庄内医師集談会がホテルリッチ&ガーデン酒田にて開催されました。参加人数は鶴岡地区、酒田地区合わせて53名でした。酒田地区医師会十全堂会長の栗谷義樹先生の開会の挨拶に続き第一部で14題の一般口述発表、第二部で特別講演が行われました。以下、その内容を簡単に紹介いたします。

一般口述発表

1) 「当院におけるヘリコバクター・ピロリ菌除菌症例の検討ー特にボノプラザン使用例についてー」

いくま内科胃腸科クリニック 井熊 仁先生
一次除菌成功率は82%で3種類のPPIのうちボノプラザンを使用した症例が一番高い成功率であった。また、ヘリコバクター・ピロリ菌の有無に関わらず定期的な上部消化管内視鏡検査は行ったほうがいい。

2) 「十二指腸GISTとの鑑別が必要であった後腹膜原発paragangliomaの1例」

鶴岡市立庄内病院 赤羽根健太郎先生
70代男性、副腎外発生は稀であり術前の鑑別が困難だったparagangliomaの症例を報告した。

3) 「当院における胃粘膜下腫瘍に対する治療戦略 ～LECSを中心に～」

日本海総合病院外科 高橋宏和先生
2014年1月から2015年7月までの胃粘膜下腫瘍手術症例11例のうちLECSを施行した4例の動画を供覧した。

4) 「血管内視鏡が有用であった不安定狭心症の1例」

庄内余目病院心臓病センター循環器内科

菊池 正先生

70代男性に施行した血管内視鏡動画を紹介した。

5) 「下肢静脈瘤に対する血管内高周波(ラジオ波)焼灼術」

庄内余目病院心臓血管外科 圓本剛司先生

2016年6月から17例20肢に血管内高周波(ラジオ波)焼灼術を施行した。ストリッピングや高位結紮術と比べて低侵襲で良好な成績をおさめている。

6) 「心房細動治療の近況について ～カテテルアブレーションを中心に～」

日本海総合病院循環器内科 桐林伸幸先生

カテテルアブレーションを施行する10%が心房細動の症例であり、左房径45mm以下で年齢65歳以下の有症候性症例が適応である。

7) 「当院における片側顔面けいれんと三叉神経痛の治療」

庄内余目病院脳神経外科 伊崎堅志先生

平成27年10月から平成28年10月までの片側顔面けいれん9例(手術5例、手術予定2例、経過観察2例)と三叉神経痛13例(手術3例、手術予定1例、薬物治療9例)の検討。手術は唯一の根本的な原因除去治療であるので積極的に手術を行っている。

8) 「リワークプログラムについて」

山容病院 小林和人先生

平成28年1月から始めたうつ病患者さんの休職から復職に向けた治療構造についての紹介。1クール4週間×6クール程度のプログラムで再休職率が減少するメリットがある。

9) 「当地区における嘱託産業医活動の現状と課題」

医療法人健友会本間病院 菅原 保先生

酒田地区の嘱託産業医51名へアンケート調査をしたところ一人当たり1~15事業所を受け持っており、回答者のうち今後も産業医を継続したい人は26名、辞めたい人は7名、もっと多く受け持っていていいとの回答は9名であった。今後産業医を増やすには資格取得者を増やす、産業医報酬を増やす、チームで取り組む活動にすること等が必要と考えられた。

10) 「「ちょうかいネット」を活用した未破裂脳動脈瘤の画像フォローアップと医療連携」

くろき脳神経クリニック 黒木 亮先生

未破裂脳動脈瘤の画像フォローアップを半年から1年毎行っている。46名の患者さんのうち6名に動脈瘤の増大をみた。ちょうかいネットを利用し病院との連携をはかっている。

11) 「当院からの緊急紹介」

さとう内科クリニック 佐藤 顕先生

平成27年6月から平成28年5月の1年間で日本海総合病院に緊急紹介した患者さんは40名でそのうち入院となったのが24名、帰宅となったのが16名だった。年齢では80代が多かったが10代も5名いた。

60%の患者さんが入院しているのでやはりクリニックの診断で重症と考えられたらためらわず緊急紹介したほうが安全と思われた。本間病院に緊急紹介した10名は全員入院となった。

12) 「P F A P A症候群」

日本海総合病院小児科 高橋憲幸先生

5歳未満で反復する発熱、頸部リンパ節腫脹、アフタ性口内炎、咽頭炎を主症状とする原因不明の疾患。発熱時のプレドニゾン屯用が有効であり扁桃腺摘出術で根治が期待できる。

13) 「足関節鏡手術の実際」

鶴岡協立病院整形外科 北本亮一先生

足関節インピンジメント症候群の30代男性、足関節捻挫後の長引く疼痛の70代女性、関節リウマチ足関節滑膜炎の80代女性、足関節骨折手術後9年経過した50代女性に対し足関節鏡手術を施行した。疼痛が改善し経過良好である。

14) 「アニサキスによる慢性じんま疹」

鶴岡協立病院皮膚科 真家興隆先生

慢性蕁麻疹の患者さん20名のうち抗アニサキス抗体が陽性だった10名に対しfish free diet (FFD) を2週間実施していただき効果を判定した。結果は有効が6名、無効が2名、脱落が2名であった。

特別講演

「不明熱の診療」

東京慈恵会医科大学附属葛飾医療センター

総合内科 診療部長 根本 昌実 先生

古典的には、1週間の精査でも原因が判明しない3週間以上続く38.3℃以上の発熱が不明熱と定義されている。原因不明疾患へのアプローチとしては、攻める問診と身体診察が大事である。不明熱で受診した Dengue 熱、リウマチ性多発性筋痛症、骨髄炎、EBウイルス感染症、化膿性椎体炎、偽痛風、結節性紅斑、不安神経症の8症例につき提示された。

鶴岡地区医師会会長の土田兼史先生の挨拶で集談会を閉会し、その後の懇親会では酒田地区医師会の先生方とさらに親睦を深めることができました。来年の第36回集談会は平成29年11月26日に鶴岡で開催される予定です。是非多くの先生方のご参加をお願い申し上げます。

第12回 健康管理センター講演会

日時：平成28年11月12日(土) 14:00～
場所：鶴岡地区医師会館 3階講堂

今年で12回目となる健康管理センター講演会が11月12日に医師会館で開催されました。昨年は新センター開設5年目の特別講演会として大きな会場に場所を移して行いましたが、今回はまた医師会館に戻っての開催。しかし、これまでセンターや医師会館で行ってきた講演会のなかでは最も多い91名とたくさんの方々にお越し頂き、講堂がぎゅうぎゅうになるほどでした。

今回の講演会は、健康管理センター 橋 健康運動指導士の「血管が若返る!! 家でも出来る簡単エクササイズ」、池田内科医院 渡邊秀平先生の「胃がん死撲滅を目指してー中学生からのピロリ除菌ー」の2本立てのテーマで行いました。



橋 健康運動指導士の講演では、血液ドロドロの解消や血管を若返らせるために運動が非常に大切であること、効果的な運動の順番、長く続けていくためのタイミングなどの説明のあと、参加者全員で、椅子の背につかまりながらスクワット、その場でできるストックウォーク・ツイストウォーク、椅子に座ってのおしり歩きを実際に行いました。参加者からも楽しくできた、簡単だったが汗ばんだ、うちでもやってみようと思うなどの意見が聞かれました。

渡邊先生の講演では、ピロリ菌とは何か、感染経路や検査法、胃がんとの関連性、除菌療法についてなど、Q&A方式で分かりやすく説明がありました。また胃がんの原因はほぼピロリ菌で、胃がんのリスクを下げるためには、ピロ



リ菌に感染していても胃粘膜萎縮が起きていない10代のうちに除菌治療することが、将来の胃がんリスクを下げることに非常に重要であることが強調され、鶴岡市で来年度実施予定である先駆的胃がん予防事業（中学2年生を対象にしたピロリ除菌）についても説明がありました。講演後の質疑応答でも、多くの質問が寄せられ、ピロリ菌や中学生に対する除菌治療に対して非常に高い関心が寄せられていると感じました。アンケートでは、ピロリ菌について理解が深まった、先駆的胃がん予防事業の効果を期待しているなどの感想も多く寄せられました。

回を重ねるごとに参加者も増えてきているこの講演会。今後も鶴岡地区医師会の理念にもある「地域住民の健康維持、増進と健やかな長寿社会の実現のために地域に貢献できる」よう、より充実した講演会を企画していきたいと思えます。

健診課 工藤 智美



鶴岡准看護学院第58回生戴帽式

日時：平成28年11月16日(水) 13：30～
場所：鶴岡地区医師会館 3階講堂

平成28年11月16日、第58回生戴帽式が挙行されました。26名がナースキャップを戴き、これから出会う患者さんへの期待と不安を胸に秘め、灯火を手にナイチンゲール誓詞を全員で誓いました。

五十嵐 栞

戴帽式を終えて、いよいよ実習が始まるんだなという不安と緊張で胸がいっぱいでした。この半年間はあっという間で、勉強やテストがあり大変だなと思うときも何度かありましたが、この戴帽式をクラス全員で迎えることができると嬉しかったです。暗唱できていなかったナイチンゲール誓詞も、全員で気持ちを一つに練習して、当日はしっかり宣誓することができました。戴帽式が終わったということは、これから本番です。実習に勉強、そして仕事との両立で今より大変になりますが、自分のなりたい夢に向かって頑張っていきたいです。

乙坂 径

入学してから7か月が過ぎ、戴帽式を終える事ができ嬉しさとともに、これからは自覚を持って実習に行き、自分の行動一つ一つに責任を持たなければならないと思いました。クラス

の仲間は年齢も生活環境も違いますが、同じ目標に向かい心を一つにして歩いていこうという気持ちを強く感じます。看護師という職業は、知識や技術を身につけておけばよいというものではありません。ナイチンゲールの灯火のように、温かさと優しさ、忠実さも大切な事だと思います。まだまだ長い道のりですが、途中で挫折そうになった時は今日の気持ちを思い出して初心に戻り、さらに努力していきたいと思います。

岸 美月

戴帽式当日はすごく緊張していましたが、式が始まってからは「いよいよだな。新たな気持ちでスタートを切ろう」と思いました。失敗をおそれずに積極的に看護を実施していきたいと思います。命を預かっている仕事なので、何回も確認を行うなど当たり前のことを当たり前と思わずに行動したいと思います。実習は実習施設があり、看護師さん、指導者さん、患者さん、先生が協力してくださっているから行えます。感謝を忘れずに日々の実習に取り組みたいです。そして、自分の目指す看護師像に近づけるよう自分に負けずに頑張っていきたいです



鶴岡地区医療学術懇話会抄録

日時：平成28年11月10日(木) 18：45～20：15
場所：東京第一ホテル鶴岡 2階鶴の間

『 当院におけるファブリー病スクリーニングの実際 ～ ファブリー病のUP DATEも踏まえて～ 』

日本海総合病院 循環器内科
科長 近江 晃樹 先生

ファブリー病は、ライソゾームに存在する加水分解酵素である α -ガラクトシダーゼAの活性が欠損または低下することにより、全身に異常糖脂質が蓄積する遺伝性疾患である。古典的ファブリー病男性患者では、 α -ガラクトシダーゼAの基質である異常糖脂質の蓄積により、若年時より四肢の疼痛発作、皮膚症状、眼症状などが出現、その後、腎障害（蛋白尿や腎不全）、脳血管障害（脳梗塞や脳出血）、心障害（心肥大や心不全）をきたす。ファブリー病の心臓では、心肥大、心ポンプ機能障害、不整脈を含む心電図異常を認め、これらの心障害は進行性であり、心不全発症後の予後は不良である。

近年、ファブリー病に対する酵素補充療法は、早期に治療を開始することにより、心臓では左室心筋重量の減少や左室機能の改善を認め、腎臓においても、酵素補充療法を早期に開始するほどより効果があることが報告されている。このように、治療効果を得るためには、早期に診断し酵素補充療法を開始する必要がある。ファブリー病の診断をいかにして早期に行うのか？ 当院におけるスクリーニングの実際をファブリー病のUP DATEも踏まえて紹介する。

Introduction

勤務医

鶴岡市立荘内病院 外科 白幡 康弘

平成28年4月より鶴岡市立荘内病院・外科に勤務しております白幡康弘と申します。以前は、ご存知のように市立酒田病院から統合後の日本海総合病院・外科に14年間勤めておりました。鶴岡地区医師会の先生方には、消化器外科、肝胆膵外科医としてのみならず、地域医療・医療連携室室長、医療安全責任者として大変お世話になりました。今回、荘内病院院長の三科先生にお願いし、実家のある鶴岡にて勤めさせていただくことになりました。現在の外科は、ただ手術すればいいという時代は終焉し、患者にあった集学的治療の時代となり、専門医としても勉強していかねばなりません。庄内で一人だけの日本肝胆膵外科学会・評議員、高度技能医制度・指導医として、南庄内の医療の発展に努めたいと思います。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

さて、あまり堅くない話ということで依頼をいただきました。私自体は面倒な分野の手術を専門にしており、いくら手術を上手くしても予想外のことが起こる事もあり、いつも患者さんにひっついてる仕事人間です。酒田病院時代は、大学時代に硬式テニス部だったこともあり、荘内病院小児科の吉田先生とも病院対抗テニスなどしておりました。テニスは自分も結構出来ると思っていましたが、吉田先生は大変上手で頭一つ上の存在でした。県立の超赤字病院との病院合併後は外科医以外の仕事も増え、膝関節を痛めたこともあり、テニスとも疎遠となりました。また、自分の肝胆膵手術は増加して

いったのですが、今の日本のレベルでも、どう合併症を減らすかというのが学会のテーマになるような分野であり、産業医講習で教わったごとく、危険予知とその結果回避義務をひたすら考えていかなければなりません。ということで、結局仕事が趣味というような人間です。ただ、そんな状況でも各種学会の専門医、指導医資格維持、自身の学会発表、若い後進の先生の学会発表の指導のため、全国津々浦々で開催されている学会には参加しております。昔は気概がない方が多く、私のみが発表・参加という状況でしたが、徐々に若手も増えてきました。そうなる現地にておいしい物を食べようという話が出て来ます。その中で思い出になるものもありました。浜松で学会が行われました。浜松と言えば、うなぎ!!となり、学会のランチョンセミナーも3日連続でうなぎ弁当でした。それは毎日食べましたが、他をチェックすると浜名湖のスッポンがあるじゃないですか。早速老舗を予約し、フルコースに挑みました。そこでは、一匹のスッポンをさばいて料理にしてくれます。生き血のワイン割りから始まり、これがどこの肉、肝合え、煮ごり、右手は唐揚げ、左手は照り焼き、後ろ足はお鍋、とりは雑炊。最後に皿として使った甲羅を土産にもらいました。自分で全部食べたスッポンの甲羅を受け取るのは、奇妙な感じもしますし、何となく感慨深いものです。この店には珍しいうなぎの刺身もあり頂きました。機会がありましたら、是非探して味わってみてください。

表 紙

「クラゲの世界へ」

事業推進課 佐藤 洋介

クラゲには脳がないから、所狭しと泳いでいても、喧嘩や訴訟はありません。

自らには感情がないのに、見ている人の心には少しのゆとりを与えてくれるというなんとも優しいいきものです。

編 集 後 記

師走の声を聞き、今年もあと2週間余りを残すばかりとなりました。皆様にとっての今年は、どんな年だったでしょうか。

やはり、印象的だった事柄は、時期アメリカ大統領にトランプ氏が決まったことでしょうか。事前の下馬評とは裏腹に、共和党候補になり、その後の選挙戦も不利と思われた中、最後の最後に逆転勝利を収めたわけです。ヒラリー・クリントン氏は、グラスシーリングを破ることはできませんでしたが、いつか必ず、その障壁を打ち破る人材が出てくることでしょう。日本においても、東京都知事に小池百合子氏が就任し、八面六臂の活躍です。結果がどうなるかは別として、都政に一石を投じたことは評価できると思います。

当地区医師会では、土田新会長のもと、新たな役員も加わり、一致団結して医師会の運営に取り組んでおります。これからの医師会事業は、今までのように必ずしも順調に行かないことも多いと思われれます。事業の方向転換や縮小の検討、あるいは、増加した職員の就業体制など、様々な問題も見受けられます。今後は、医師会会員の皆様から、なお一層のお力添えを頂きながら、地域の健康を守るための努力が必要になります。どうぞ、よろしくお願い致します。

今月号でも、庄内医師集談会や医療学術懇話会の印象記・抄録が掲載されています。酒田で行われた集談会には、鶴岡からの演題も少なく、また、参加された先生方も数えるほどで、やや寂しい感じが残りました。やはり、会場で直接講演を聞くことは、何よりの勉強になります。来年は鶴岡が当番となります。皆様のお役に立ち、興味の持てる企画も考えていきますので、是非、多くの先生方からご参加頂きたいと存じます。

11月初旬での初雪も見られ、インフルエンザの流行も、数年ぶりに早期に始まりました。皆様、お身体ご自愛頂き、良いお年をお迎えください。

(福原 晶子)

編集委員：三浦道治・小野俊孝・福原晶子・三科 武・佐久間正幸・木根淵智子・渡邊秀平

発行所：一般社団法人鶴岡地区医師会 山形県鶴岡市馬場町1-34

TEL 0235-22-0136 FAX 0235-25-0772 E-mail ishikai@tsuruoka-med.jpホームページにも掲載しております [鶴岡地区医師会](http://www.tsuruoka-med.jp)  URL <http://www.tsuruoka-med.jp>